

GKP広報大賞に見る

下水道PRの極意

下水道広報プラットフォーム（GKP）

第4回：【貢献賞】東亜グラウト工業は、次世代を担う学生とともに「水循環」を考えて行動

GKP広報大賞2025応募作品のすごさ、真似できそうなポイント等をご紹介する連載第4回は、貢献賞の東亜グラウト工業「『水循環に思いをはせる日』次のフェーズへー伝える』広報から、未来のステークホルダーと、共に行動する。『広報へー』です。

同社は2021年、「11」に2本の上下水道に見える「8」と「いいパイプの日」と読める11月8日を「水循環に思いをはせる日」として日本記念日協会に申請。「この業界は一般の方々にほとんど知られていない。その大切さを理解い



協働ビーチクリーンの様子

ただきたいし、働く人たちに敬意を表した。今後も健全な水循環を守っていく決意表明もしたい」という山口乃理夫社長の言葉通り、以降、継続的にプロジェクトを進めてきました。

文香さんによると「5年目となる2025年度は次世代とともに現場で汗を流す行動を重視」して、全日本学生ヨット連盟主催の大会に協賛し、学生選手63人と「協働ビーチクリーン」を実施。学生が「やっぱり汚い海は嫌だ」との声も。また、山口社長がインフラメンテナンスを語る新作動画を公式YouTubeチャンネルで公開（1カ月で2万回超の再生）。

「貢献賞」は、本取組みが一企業のPRを超えて下水道界全体に貢献することから、審査員が今回特別に作りました。南洞誠執行役員によると「未来の下水道の担い手を育てるといって広い視野を持つことが、結果として自社にも還元されると考えている」そうです。

民間企業からの応募が減る中、同社は2018年以来8回連続の応募で、本賞には広報大賞への貢献を評価する意味もあります。2018年に民間部門賞、2019年に準グランプリ、2020年にグランプリを受賞と「殿堂入り」に王手をかけており、「貴重な自己研さんの場(南洞氏)」「殿堂入りを目指す(山口社長)」と今後も期待されます。

GKPは産官学が集まり下水道広報を実施・応援する団体です。今後とも民間企業の皆さまからのご応募をお待ちしています（次回募集は11月頃の予定）。



2025年度
の取組